

「フジャンド市産科病院暖房設備改修計画」 引渡し式

10月13日、相木大使は、首都ドゥシャンベ市の北北東約200kmに位置するフジャンド市を訪問し、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」で実施された、同市産科病院暖房設備改修プロジェクトの引渡し式に出席しました。

本計画で我が国政府が93,408米ドルをフジャンド市産科病院に供与し、暖房設備が改修されたことにより、同院を利用する妊産婦にとって、より快適な院内環境が整備されました。

相木大使は引渡し式の挨拶で、保健・医療分野は日・タジキスタン二国間協力において特に重要な分野の一つであり、この支援がタジキスタンの持続可能な発展につながり、日本とタジキスタンの友好が強化されることを願っていると述べました。これに対して、バクティオール・ボキゾダ フジャンド市副市長、及びムカダス・ヤクボヴァ フジャンド市産科病院長らからは、日本政府及び日本国民からの支援に対して謝意が表明されました。

タジキスタンでは、1996年から今日まで、草の根・人間の安全保障無償資金協力として合計459件、総額約3,805万ドルに上るプロジェクトが実施されています。

